

5. その他の異常

(1) アルミニウム製の鍋やヤカンに白い突起物を生じて穴が開く。

[原因]

アルミニウムは、鉄などと同様に容易に腐食されます。このため、メーカーではアルマイト加工を行い、アルミニウムの表面に皮膜を作り腐食を防いでいます。この皮膜は非常に薄く、タワシなどでの強い洗浄や、又は、沸騰の繰り返しなどで剥がれてしまいます。アルミニウムが露出すると、水に含まれている塩素イオンや、湯沸器などの銅管から溶け出すごく微量の銅イオンにより、アルミニウムの一部が集中的に腐食され穴が開きます。

[対策]

固いタワシなどでこすらず、洗剤を使い柔らかいスポンジなどで洗ってください。使用後は水を入れたままにしないで、乾燥させることをお勧めします。また、空炊きに注意してください。

(2) 容器に水を汲みおきすると容器がヌルヌルする。

[原因]

容器中の水道水の残留塩素がなくなると、空気中の雑菌(細菌やカビ)が水中に入り、容器の壁面に付着し、繁殖してヌルヌルした状態になります。

[対策]

こまめに容器を洗い、水を汲み換えて下さい。

(3) 池の魚が死んだ。

[原因]

水道により供給される水については、水道法によって病原生物の汚染を防止する目的で塩素消毒(水道法施行規則17条第3号により、遊離残留塩素0.1mg/ℓ以上)が義務付けられております。

塩素は水中の細菌を殺す働きをしており、これがないと水道水が病原菌で汚染される恐れがあります。このため、浄水場では安全を見込み(すべての管末で検出が必要です)一定量の塩素を注入しています。この塩素が、メダカや金魚などの塩素消毒に対して抵抗力の弱い魚介類に悪影響を与えます。

[対策]

汲み置きをしたり、薬剤(チオ硫酸ナトリウム)で中和してから使用しましょう。

(4) 水道水について、どのような対策をとっているのか。

水道法に基づく水質検査を行っており、すべての検査において基準となる数値をクリアしています。水質には全く問題ありません。

味覚、臭気等の感覚には個人的な差異がありますが、夏期には水道水から消毒用の塩素が揮発しやすくなり、「消毒臭い。」「薬品臭い。」などの苦情を度々いただきます。五泉市上下水道局としても適切な施設管理や塩素消毒管理し、「美味しい水」を追求すべく努力しています。

(5) 水道水には発癌物質があると聞いたが大丈夫か。

水道水中の有機物と消毒用の塩素が反応して生成されるトリハロメタン類(消毒副生成物)には、発癌性の疑いが持たれていますが、WHOの勧告に基づき、生涯に渡る連続摂取をしても人の健康に影響を及ぼさないレベルにまで浄水処理されています。また水質基準が設定されており、定期的な検査が行われています。

(6) 環境ホルモン、ダイオキシンについて水道は大丈夫か。

ダイオキシンは、非常に水に溶けにくい物質であり、水の中では、懸濁物質等に吸着して存在しているものと考えられます。水道水には濁度の基準があり、一般環境中の河川水等に比べ桁違いに低い濃度レベルです。

また、平成11年12月に水道水の安全性に万全を期するため、ダイオキシンが監視項目に加えられ、指針値として1pg-TEQ/L(暫定)が定められました。今後は定期的な監視が続けられます。

環境ホルモンについては、いくつかの研究が行われていますが、環境中の挙動や、健康・生態への影響についてはまだ明らかにされていません。ただ、県内の水道水の検査結果は、全国の平均レベルと考えられます。当面は、厚生労働省などの研究成果を踏まえ、水道水の安全確保に努めていきます。